

TAKE FREE

MOVE

心が動くまちKOIWA



MOVEは、小岩の暮らしがもっと楽しくなる情報をお届けするフリーペーパーです。

2023 # 003

ワタシ and コイワ

003

TOKUMASA FUNAKI

西小岩六軒島町会 会長 船木 徳政さん

小岩のまちにお祭りが、お神輿みこしが戻ってきた！コロナ禍のために開催を見合わせていた小岩神社例大祭が2023年8月19日(土)・20日(日)開催され、勇壮なお神輿が小岩のまちを練り歩きました。今回は、小岩神輿連合を構成する西小岩六軒島町会の会長であり、神輿同好会「六軒睦」の代表を務める船木徳政さんに、お祭りへの思いを伺いました。

—— 実に5年ぶりの小岩神社例大祭となりました。

今年はやっぱりすごかったですね。良かった。前の例大祭は平成30年ですから、令和初の開催と言えるわけです。自粛期間中は、子どもたちにも楽しみがないし大人たちも家の中に引っ込んでいるし：私たちがみたい人間にとっては大変な時代でしたね。



まあ私たち、令和3年と4年に2回、お神輿は出しているんです。5年もたつと小学生は中学生になるし、行政や警察、消防の方も異動があつて、経験者がいなくなるじゃないですか。やり方を忘れないためにも、町内だけですぐぐるつと回って子どもに担がせたりしました。夏休みもイベントがまるでなかつたので、みんな楽しそつでしたよ。

—— そもそも、船木さんどのようにお神輿と出会ったのですか？

私は小岩の人間ではなくて、生まれは北九州の小倉です。故郷には「小倉祇園祭ぎわんまつり」というお祭りがありました。神輿みこしじゃなくて、大きな山車だしが出るんです。特に太鼓が有名で、私も小学校のころやっていましたよ。土曜の練習に参加すると学校に行かなくてもよかつたから(笑)。そのころから地域に根差した「祭り」というものが大好きでしたね。それから上京して、最初に住んだのが新小岩。そこで友だちに誘われて、初めてお神輿を担いだわけです。元々祭り好きだったから、すっかりはまっちゃいましたね。それから平成8年、小岩に移り住みました。

—— 小岩もお祭りが盛んでしたか？

他の地域はわからないけれど、私が引っ越して来た当時の六軒島町会では、町内の活動自体がそん

地域によって担ぎ方って違う？

江戸前の神輿は、神輿が進む向きに平行に担ぎ棒が付いていて、担ぎ手は皆前を向いて進みます。変わっているのは、品川や五反田の「城南担ぎ」。横棒が長くて、担ぎ手はそれを肩に乗せて欵ちゃん歩きのように横に動きます。



担ぎやすい肩はありますか？

右利き左利きがあるように、肩にも「強い肩と弱い肩」があります。私は右利きだけれど、左の肩が強い。その方が担ぎやすいというか、棒を肩に乗せたときにしっくり来ます。逆で担ぐと、とても重く感じるんです。



担ぎ方のコツを教えてください！

お神輿は上下するから、普通に歩いているだけだとゴツゴツ当たって肩が痛くなってしまいます。私たちは「腰を切る」って言うんだけど、腰で担いで体を棒に合わせていくのがコツ。まわりの人に「教えて」って聞くのがいちばんてっとり早いかな。



地域がひとつになる「祭り」。お神輿にかける想い。



「大人が楽しむ姿を見て子どもも祭りが好きになる。祭りの楽しさと伝統を伝えていきたい。」

なに盛んではありませんでした。だから、盛り上げるためにお神輿を始めて町内の半纏はんてんを揃えて：と少しずつ整えていきました。それから、「個々の町会でやるだけでなく、みんなで小岩を盛り上げようよ」という話が持ち上がり、南側の四町会（小岩東部町会・東小岩中央自治会・四南自治会・小岩二東町会）が組織していた「一心会」に平成19年西小岩六軒島町会と小岩北口町会が加わり、その後片山自治会も加えた7町会で「小岩神輿連合」ができました。その頃からかな。小岩のお祭りがネットでも広まって、有名になった感じがしますね。

—— 今回の例大祭も、たくさんの方で賑わっていました。

をくれたけれど、まだまだたくさんの人に参加してほしいですね。子ども神輿も本来であれば子ども会で担ぐのですが、子ども会の子もたちも減っています。だから小学校にお願いをして、子どもを集めてもらいました。今後、お祭りをどうやって継続させていくか、ひいては町会や子ども会をどう維持していけばいいのかという思いは常にありますね。

—— 一方で、お祭りに参加したい、お神輿を担いでみたいという方は多いように思います。

お祭りは続いていくものですから。だから私たちは、「小岩にいたらこういう楽しみ方ができますよ。子どもたちはこんな風に育っていきますよ」ということを伝えられるようなお祭りをしていきたいんです。

そうですね。お神輿は町会に所属していなくても担げるから、ぜひ気軽に参加してほしいです。遠くから見ているより、担いだ方が絶対に楽しいんだから（笑）。町会の半纏もお貸ししますし、担いだことのない初心者の方も、女性の方も大丈夫！大人がお祭りを思いきり楽しんでいる、その姿を子どもに見せてあげたいんですよ。お父さん、お母さんの半纏姿がカッコいいなあ。自分も担いでみたいなあ。そんな気持ちが脈々と受け継がれて、

—— そうですね。お神輿は町会に所属していなくても担げるから、ぜひ気軽に参加してほしいです。遠くから見ているより、担いだ方が絶対に楽しいんだから（笑）。町会の半纏もお貸ししますし、担いだことのない初心者の方も、女性の方も大丈夫！大人がお祭りを思いきり楽しんでいる、その姿を子どもに見せてあげたいんですよ。お父さん、お母さんの半纏姿がカッコいいなあ。自分も担いでみたいなあ。そんな気持ちが脈々と受け継がれて、



小岩のまちは今変わりつつあって、新しい住人も増えています。お神輿でもお祭りでも町内の運動会でもいい。人が集まる場所で近所同士のコミュニケーションを楽しんでほしいですね。私たちも、皆さんが楽しめるようなイベントを企画していきたいと考えています。



船木さんの豆知識

お祭り・お神輿ってそもそも何？

輿というのは昔の乗り物。神様が乗るからお神輿といいます。いつもは神社にいる神様の御霊をお神輿に乗せて氏子町内を練り歩き、家内安全や無病息災を願います。だからお神輿は神聖なもの。上に乗ったりするのはタブーです。



お祭りにおける半纏（はんてん）とは？

半纏は祭りにおける正装。半纏を着ていないと神輿が担げないというルールがあります。地域や団体の名前が染め抜かれているのだから、半纏は大切に扱わないといけません。座る時も尻の下に敷いたりしちゃダメですよ。



お神輿の掛け声は？

深川八幡宮の「ワッショイワッショイ」が有名です。これは、「和と一緒に背負う（しよう）」から来ていると言われています。浅草三社祭や神田明神は「セイヤ、セイヤ」の掛け声で担いでいます。



古今 東西南北 小岩

江戸川区が「水とみどりのネットワーク」づくりの一環として設けている親水緑道。緑を感じ、水のせせらぎを聞きながらお散歩してみませんか？今回は小岩エリアの親水緑道をご紹介します。

南小岩

下小岩親水緑道



©Edogawa

南小岩7丁目の住宅街から、千葉街道の1本北側を南西に通り新中川に抜ける下小岩親水緑道。この一帯は明治の初めまで農業が盛んだった。かつて農業用に開かれた用水路は、その後都市化に従い排水路として利用されてきたが、下水道の整備によって役目を終え、江戸川区最初の親水緑道として整備された。豊かな田園風景が広がっていた頃を想像しながら歩くのも楽しい。

また、緑道には彫刻家 浜田彰三氏による彫刻が11基設置されている。子どもやピエロがモチーフとなっていて、いきいきとした動きや楽しげな表情にも注目したい。

北小岩

上小岩親水緑道



©Edogawa

京成線の線路沿いから、北小岩の閑静な住宅街を北上して江戸川に抜ける上小岩親水緑道。四季折々の植栽が私たちの目を楽しませてくれる。この緑道が通る北小岩6丁目・7丁目には、弥生時代後期から古墳時代、近世(室町時代)までの史跡が見つかる複合遺跡「上小岩遺跡」がある。緑道内にも遺跡のモニュメントや土器が描かれたマンホールが点在しているのがおもしろい。

この遺跡が発見されたのは昭和27年。小岩第三中学校の生徒が自宅裏の用水路から土器片を見つけ、先生に知らせたことがきっかけだった。以降発掘調査が行われているが、2020年上小岩小学校の改築に伴い学校敷地内で発掘が開始され、今もその様子を見ることができる。

ちなみに、東大寺正倉院に残る奈良時代(721年)の戸籍に「甲和里(こうわのさと)」という里が記録されており、これが現在の「小岩」の地名に転化したと言われている。弥生時代や奈良時代の人々もここでくらすしていたという歴史のロマンを感じながら歩いてみてはいかがだろうか。



5



気分はベトナム旅行！
初めての料理にも挑戦したくなる

にぎやかな外装、内装が東南アジアらしい店。ランチにも人気のフォーは、コクのあるスープにほんのりピンクの牛肉が柔らかい。あっさりしていて弾力ある食感がおいしいローストダックは、ベトナムではお祝いに食べるという。ココナッツミルクにゼリーやフルーツを合わせたチェーはデザートに。



6



7



デニャットクアン

ベトナム料理専門店 DE NHAT QUAN

2・3階にはベトナム人向けの美容院やカラオケが入る ●江戸川区西小岩5-1-22

●03-6770-0708 ●10:00~22:00 (月~金)、10:00~23:00 (土・日曜、祝日) ●不定休

5 牛肉のフォー 979円

6 チェー各種 869円

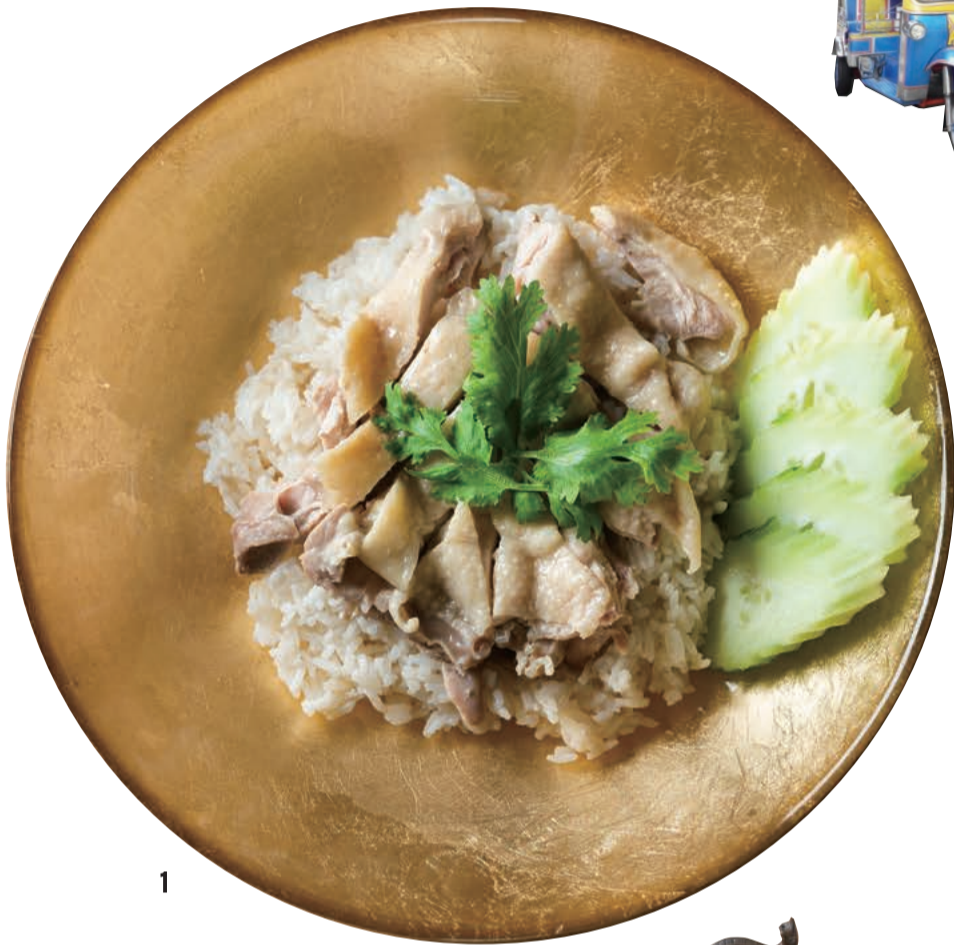
7 ローストダック 2,178円

KO IWA

ジャーニー



タイ古式マッサージなどで多くのタイ人が働く小岩は、レストランも本格的！
今回のジャーニーは東南アジアをテーマに、タイ料理店とベトナム料理店を
紹介します。さあ、KOIWA を旅してみよう！



1



3

本場のイサーン料理 「おばあちゃんの味」を楽しむ

ソムタムやラープなどが有名なタイ東北部イサーン地方の料理が満喫できる。サイコーイサーンはイサーン風ソーセージ。ほろほろとした食感とほのかな酸味がおもしろい。モチモチした米粉の太麺を炒めたパッシウは甘めの味付けがくせになりそう。店名のクンヤーイはタイ語でおばあちゃんの意味。



居酒屋風店内でいただく ホテル仕様の本格タイ料理

現地のホテル出身シェフが作る洗練された料理。美しい食器はオーナー自慢のコレクション。しっとり柔らかいカオマンガイに、まるやかな味わいの蟹カレー。調理の様子を覗けるのはタイ料理店では珍しいこと。夕方から販売するテイクアウト用のタイカレーは、ビニール袋に入れた素朴なスタイルが現地風。



2



4



タイ料理居酒屋 バンコクザップ

料理の辛さは調整可能 ●江戸川区
南小岩7-25-14 丸昌地藏ビル1F
●17:00~24:00 ●水曜休

- 1 カオマンガイ 1,000円
- 2 蟹カレー(プーパッポンカレー) 1,000円



タイ料理とカラオケ クンヤーイ

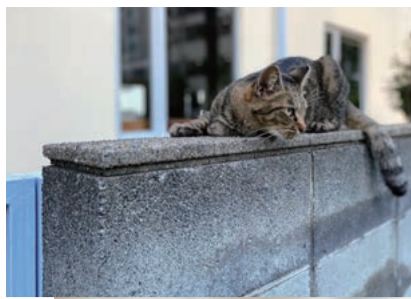
タイ食材や生活雑貨も販売している
●江戸川区西小岩1-22-8 JSIIビル2F
●03-5876-7073 ●11:30~14:30/
17:00~23:30 ●不定休

- 3 サイコーイサーン 1,200円
- 4 パッシウ 1,200円

※価格は全て税込です。



案内人の家森さん。地域猫の撮影もライフワーク。



profile 家森 健(いえもりつよし)

広島出身の行政書士。13年前から小岩在住。散歩途中で出会った景色をスマートフォンで撮影するのが趣味。2021年小岩レトロフォトコンテストで「小岩デラックス賞」を受賞し書籍「ラブユ-小岩レトロ」で撮影を担当。71歳。



珈琲 木の美 写真①銀色のポットで提供されるアイスコーヒー ②マスターの山本義一さん



わたしの小岩の歩き方 TSUYOSHI IEMORI

どこことなくノスタルジックな小岩のまち。その風情に一役買っているのは、ここに点在する喫茶店ではないだろうか。昔ながらの看板を掲げ、昭和の時代から何ひとつ変わっていないかのように風景に溶け込む喫茶店。そんな小岩の喫茶店を愛する家森健さんと一緒に、小岩のまちを歩いてみた。

「もちろん流行りのカフェで仕事をすることもありますよ。でも、昔ながらの喫茶店ではパソコンを開こうなんて思わない。喫茶店はくつろぐために行く場所。マスターとおしゃべりしたり、新聞や雑誌をゆっくり読んだり。いつ行っても同じマスターがいるという安心感もチェーン店のカフェとは違うよね。」

そんな話をしながら歩いていると、かわいらしい「珈琲」の看板が見えてきた。小岩界隈の喫茶店では老舗中の老舗、「珈琲 木の美」だ。

小岩の喫茶店ブームを牽引した「珈琲 木の美」

小岩駅から徒歩2分の「珈琲 木の美」は、山小屋のような青い三角の屋根が特徴の名店だ。昭和30年にフラワロードで開業した。開店当初、小岩には2軒しか喫茶店がなかったが、現在の場所に引っ越した昭和39年は空前の喫茶店ブーム。小岩駅北口だけで80件以上も喫茶店があったというから驚きだ。

木の美を創業したのは、現マスター山本義一さんのお母さん。技術者として働き体を壊してしまった夫を支えるため、40代で喫茶店を開いたそうだ。後を継いだ山本さんは現在80代。厨房を担当する弟さんと一緒に、元気に働いている。

「常連さんはもちろん、テレビや雑誌が取材に来てくれたり、若い方が来て写真を撮って宣伝してくれたりする。本当にありがたいです。だから来てくださる方のために、できるだけのことはしたくて。長年やっている、細かいところに目が届かなくなったりするでしょう？店内の隅に埃がたまったり。私はそういうのが嫌だから、気づかないところまで気を遣いたいと思う。店先の植木を『きれいに手入れしていますね』なんて言われると、本当に嬉しいんですよ」。そんな山本さんの言葉に「変わらぬに在る」ことも大変だと気づかされる。

その思いは喫茶店の本分であるコーヒーにも。「豆にはこだわっています。アイスコーヒーは手を抜く店もあるみたいだけれど、うちは落としたてを冷やしますからね。ぜひ試してみてください」。銀のポットから自分で注ぐアイスコーヒー。マスターおすすめのモカフレンチは、苦みの中にほのかな甘さを感じる逸品だ。

レトロ&キュートで再注目の「喫茶 白鳥」

次に案内してもらったのは「喫茶 白鳥」。小岩駅南口のロータリーを見下ろす2階の店だ。看板に描かれた2羽の白鳥が、まるでハートを形作るように向かい合っている。食品サンプルのショーケースは見ているだけで楽しい。

入店するやいなや「あれがいいんだよ」と家森さん。指をさした先には山積みの雑誌が。「ああいうのも最近のカフェにはないでしょ？長居されると回転率が悪くなっ



珈琲 木の実

江戸川区西小岩 1-20-20
03-3657-5669
9:00～17:00 (月～金)、
9:00～18:00 (土・日曜、祝日)
年末年始休



喫茶 白鳥

江戸川区南小岩 7-26-2
03-3673-9325
8:00～19:00
月曜定休



cafe 小岩倶楽部

江戸川区南小岩 5-21-14
メゾンバンカッセル 102
03-3673-3193
11:30～22:00
月・火曜定休



喫茶 白鳥 写真③都内でも数少ない現役のインベーダーゲーム ④オーナーの鈴木綾子さん



cafe 小岩倶楽部 写真⑤マスターの竹村友義さん(左) ⑥ずっりと並ぶカップのコレクション

小岩でくらす人の数だけ小岩の歩き方がある。

小岩のまちを一緒に歩き、その目に映る風景や心に浮かぶ思いを聞きました。



「落ち着いた時間を楽しむ」cafe 小岩倶楽部」

次に訪れたのは千葉街道沿いの「cafe 小岩倶楽部」。店内の壁一面にカップや茶器、調理器具、さまざまなジャンルの本などが飾られ圧倒される。見上げた天井にはウッドベースまでなぜ飾っているのか尋ねるとそれぞれにストーリーがあり、マスター竹村友義さんの経歴や歩んできた道が形になったような店だ。

この喫茶店はマスターの奥様である老舗洋菓子店「バンカッセル」とひと続きになっていて、同店のケーキや焼き菓子が店内でいただける。マスター手作りの本格的なパスタやピザも、コーヒー同様人気が高い。

「うちの店は比較的女性客が多くて。背中が曲がったおばあちゃんが娘さんに連れられて来てくれるの。おしゃれてね」と、竹村さん。家族ぐるみの温かさを感じ心地の良さを感じるのかもしれない。新規のお客さんも増えているそうだ。

家森さんに、小岩になじんだ経緯を聞いてみた。「気兼ねなく話せる店ができることは大事だね。私もなじみの飲食店をきっかけに小岩と繋がりができていった。フラワーロードのサンサール(ネパール料理店)もそのひとつ。しょっちゅう一人で通っていたら、店主のウルミラさんが話しかけてきて仲良くなった。実はこの店を教えてくれたものウルちゃんなんだよ」。竹村さん、ウルミラさん、家森さんの3人は、今や一緒にジャズライブに出かける友人関係だという。

「習い事もいいじゃない。私は「ミニミニ」会館で詩吟と尺八を習っているからね。そのうちこの店で演奏するから」と言う家森さんに、「歯がなくなったら尺八も吹けないよ」と茶化す竹村さん。店内に流れる重厚なジャズをかき消すように、二人の笑い声が響いた。

「今年3月に母が亡くなるまでは、母と私、息子2人の3代で一緒にお店をやってきました。47年前にこの店を始めたときにはすでに都市開発の話があったから(立ち退きは)ようやくかという感じですよ。移転は考えてない。この場所だからやってこれたけど、駅から離れたビルに入ったりすると個人店は難しいです。急な階段を、杖ついて通ってくれる常連さんもあるからもちろん寂しい。だから、私がこの店をしっかりと見届けたいと思っていますね。最後まで頑張りますよ。」

「でも、コーヒー飲みながら新聞や雑誌読みたいよね」。この雑誌、お店が用意したのではなく来店した客が置いていったものだというからおもしろい。メニューを開くとナポリタンやピラフなど、これぞ喫茶店という料理が並び。オーナーの鈴木綾子さんは「料理には力を入れていますよ。ナポリタンやピラフは昔から変わらないレシピだし、生姜焼きのタレも自家製。クリームあんみつの寒天も自分たちで作っているしね」と胸を張る。昭和51年の開店以来多くの常連客に愛され、また最近若い人たちも「エモい」スポットとしてプリンアラモードやインベーダーゲーム機の写真を撮りに訪れる白鳥だが、3、4年後には建物が取り壊され、立ち退くことが決まっている。

あなたの好きな「小岩」を教えてください。

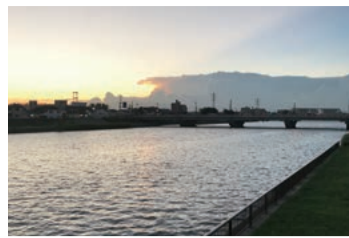
小岩でおすすめのお店やスポットを紹介する投稿コーナー。読者の皆様から、素敵な情報をお送りいただきました。ありがとうございます。投稿はまだ募集！皆さんもぜひ、小岩のお気に入り教えてください。



MOVE 読者投稿フォーム ▶



大切な友達を必ず連れていく店。A5ランクの和牛をかなり割安で提供してくれます。ここの焼肉を食べたらもう他には戻りません。特にオススメはハンバーグ。焼肉屋なのに？疑問に思ったらぜひ一度食べてみてください！ (投稿者: ちょっち)



コロナ感染を恐れ、毎夕家族を送り通った上一色中橋。赤く燃えるような夕焼け、雲の色、形日々変化する景色に、足を止め撮影する人。この日は、大きな口を開けた怪獣の様。度々、稲光怖さを感じる空でした。 (投稿者: Y.M)



小岩が誇る隠れ家 Bar、STOMP。ジュークボックスで、自分好みの音楽を流しながら過ごす夜は最高です！マスターはとっても気さくでダンディー。Bar初心者でも肩肘張らずに楽しめるのでおすすめです。 (投稿者: koiwabase)

ハンドメイドの魅力あふれるアトリエで「私だけの1点もの」を作る！

小岩のワクワクを日々探し求める編集部が、気になるコトを体験レポート！今回は、UVを照射すると固まる樹脂「UVレジン」を使っておしゃれなキーホルダーを作りました。(取材・文 ワカナ / KOITTOスタッフ)

圧倒されるオーシャンアートやエポキシレジン、アルコーリングアート、レーザー加工などが気軽に楽しめるサロン「ティエンダースミン」で、すみのかおり先生にレクチャーいただいてUVレジンのイニシャルキーホルダーワークショップを体験してきました。先生のように素敵な作品を作れるか少し緊張気味。しかし先生の世界観がたくさん詰まったアトリエはインスピレーションで溢れているのでイメージを膨らませることができました。

まずはどのような形状で作成するかを決めます。先生が取り出したのはシリコン型のプレート。アルファベット以外にハート型や星



編集部が行く！



最後の仕上げ。思わず表情も真剣になる…！



完成！自分の作品だから、嬉しさもひとしお。大切に使います♪

型などもあり種類豊富です。好きなものを選び、これもまた種類がたくさん。単色を選んでも、グラデーションを選んでも先生のアドバイスをいただながら進めて作るの安心です。わたしはKOITTOのKを選び、モノトーンの色味を目指しました。

数も少なくなり集中モード。段々と完成が見えてきます。そして型から外すドキドキの間です。思わず、わあー！と、歓声をあげてしまいました。でもここで完成ではありません。最後にキーホルダーの取付け作業が残っています。小さなドリルで穴を開けゴールドかシルバーのキーホルダーをつけます(すこく緊張)。まさにDIYです。ティエンダースミンでは作品と一緒にチャームと好きなカラーのタッセルまで選べます。ペンチでしっかりと固定して完成！世界で一つだけの作品ができて大満足です♡



① UV レジン液に好きな色で着色する ② シリコンモールドにレジン液を流す ③ 気泡を取りUVライトで硬化させる。②～③を繰り返して厚みを出す ④金具を埋め込みタッセルとチャームを付け完成。



すみのさんが「来てくださる皆さんの笑顔が見たいから」と始めたアトリエ。レッスンメニューが豊富で決めきれないほど！外国産の画材など家では揃えられない材料をふんだんに使い、のびのびと表現できるのも魅力です。先生のセンスや世界観に惹かれて足を運ぶ方も多いのではないのでしょうか。新しい自分が発見できる場所だと思います！(ワカナ/KOITTOスタッフ)

未就学児のお子様から高齢の方まで体験できます。ウェディングのウェルカムボード・プレゼント・自宅用などにご利用ください。最近ではアートにプラスしたレーザー彫刻サービスが大変好評です。(すみのかおり)

Tienda-SUMIN (ティエンダースミン)

●江戸川区南小岩1-7-1 ●090-9965-1158 ●年末年始 休業 ●<https://cubic.com/tienda-sumin>



MOVE ～心が動くまち KOIWA #003 2023年10月発行

企画・発行 一般社団法人小岩駅周辺地区エリアマネジメント (KOITTO)
〒133-0056 東京都江戸川区南小岩7-24-20
FIRSTA I (ファスタワン) 1階 KOITTO TERRACE(コイットテラス)
TEL 03-6657-8007

編集 まいづれ江戸川区 (株式会社京葉十二社広告社)

撮影協力 as J works (小岩神社例大祭)

表紙 喫茶 白鳥

編集後記

「MOVE 心が動くまち KOIWA」今号の特集はいかがでしたでしょうか。読者の皆さま、最後までお読みいただきありがとうございました。笑顔で取材に快く応じてくださり、興味深いお話をたくさん聞かせてくださった小岩の皆さま、制作にご協力いただいた皆さまには感謝の気持ちでいっぱいですし、紙面を通じこのご縁を今度はたくさんの方々へ繋げられることを嬉しく思います。まさに今心が動かされているのを感じています。小岩のまちでまた新たな出会いや発見が生まれましたら幸いです。(ハナエ/KOITTOスタッフ)

「MOVE～心が動くまち KOIWA」は、KOITTO(一般社団法人小岩駅周辺地区エリアマネジメント)が年2回企画・発行するフリーペーパーです。